

この感動を前進の糧にしよう！

会長 鈴木 精成

「優勝！四十三番、千代田岳精会男子」委員長の発表の声に「カルツツかわさき」大ホール二階席に大歓声が沸き上がりました。令和元年六月六日（木）、岳精流日本吟院全国吟道大会における千代田岳精会の新しい歴史の幕開けの一瞬でした。

合吟コンクール優勝！おめでとう。これ以上の喜びなし！

岳精流日本吟院 ちよあ

第 63 号

令和元年8月
千代田岳精会弘報

平成三十一年・令和元年指標

香 気

女子チームも頑張った。千代田の女子パワーのこれからの担う皆さんが精一杯の力を発揮しました。

合吟は一人の突出した力量で決まるものではなく、文字通りチームワークの成果です。男女チームとも多くの練習回数を積み重ねてきたことよって「結果」を出したことに大きな拍手を贈りましょう。

令和元年の「全国吟道大会」へは、千代田から二二〇名の会友が参加しましたが、そのうち六九名（三〇％）の方が新しい層（入会歴四年まで）の方々であったことは、将来に向かって頼もしい限りだと思います。一般合吟での参加者全員の力一杯の吟詠など、皆さんが貴重な経験を得られたことでしょう。「令和」の年ここに輝けりです。

今年も「昇伝審査会」「全国吟道大会」とメイン行事の盛り上がりと共に過ごしてまいりましたが、千代田としての着実な歩みも進めて参っております。左記のような成果です。

一、六回の研修会が有意義に終わった。

「教場長研修会」から「初級層研修会」まで、参加の方々の熱心な研修が行われた。

二、今年二か所目の新しい教場がスタートした。

おめでとう！

「金町教場」（中内博風教場長）が八月一日か

ら、四名の仲間と活動開始、会として三〇番目の教場です。

三、五〜八月も十二名の新しい方の入会を迎えた。一〜四月の十三名に続いて教場が活気を呼んでいる。

四、「千代田岳精会ホームページ」が本格スタート。（八月六日から）

十月六日（日）〜八日（火）には「新潟吟行会」が行われ、当会からも有志（十六名）が参加しますが、それに次いで、十月二十日（日）日帰りバスの旅「千代田岳精会吟行会」が賑やかに開催されます。八〇名に及ぶ吟友相集い、秋の上州路を訪ね、若山牧水の詩碑に親しむことは有意義なことだと思えます。牧水の詩碑の前では、大合吟もやりたいものです。

幸い、地元には名門「渋川岳精会」が活動しており、この日が丁度「牧水まつり」にあたるので、渋川岳精会会員の皆さんも催しに参加されること、皆さんと交流の場が持てればと期待しています。

六月から七月にかけて、わたくし事、入院治療にかかり、その間活動を休ませていただきましたが、お陰様でどうやら良好な方向に向かっております。今後とも皆様と共に吟樂に努める所存です。宜しくお願いいたします。



全国吟道大会 合吟コンクールで栄えの優勝!

平成から令和へと年号が変わり、新しい時代への期待が漲る六月六日(木)、昨年開設の「カルツツかわさき」で全国吟道大会が開催されました。新しい会場は利用日が一昨年までの川崎教育文化会館のように休日確保が難しく、今年も平日開催となり、通勤ラッシュの混雑と重なるため、一時間遅らせて十時の開会となりましたが、残念ながらことに幼年部は参加出来ない大会となりました。千代田岳精会は最大規模の地元勢として、総勢二二〇名がエントリー、また役員や係として多数の会員が担当して大会を支えました。ご協力いただいた会員の皆様に感謝します。

冒頭の会員合吟は、全員が舞台上上がって吟ずる場ですが、遠来の会員さんは舞台へ立つ唯一の場である方もいらっしゃいます。それぞれの思いを込めて力強い合吟でした。

第二部の合吟コンクールで千代田は男女二組のチームが挑戦しましたが、これまで入賞にはご縁がありませんでした。伝統ある他会の後塵を浴び続けて悔しい思いをした先輩の思いを引き継いだ男子チームが遂に念願の優勝の栄冠を手にし、結果発表では二階席から大歓声が上がりました。大きな優勝杯、賞状そして一人ひとりの胸にはメダルがかけられました。

大会での千代田の担当は今年から会場係です。一番手がかかる係で、犬飼堯風事業部長以下多数

が前日の設営、当日の管理と警備をして撤収作業と大変な量の役割でした。有難う、ご苦労さまでした。

岳精流日本吟院 全国吟道大会 「合吟コンクール」に優勝して

東陽町支部教場長 宮野 幸山

千代田岳精会男子合吟チームは、六月六日カルツツ川崎で開催された岳精流日本吟院全国吟道大会の合吟コンクールで初優勝に輝きました。

ご指導頂きました徳本先生と萩原先生並びにメンバー全員は会場で喜びを分かち合いました。又、会長主催の祝勝会も開催して頂き、優勝の感激に暫く浸っておりました。

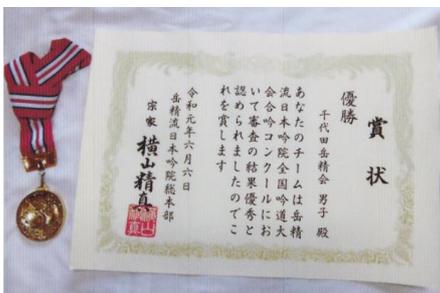
優勝を振り返った時、この優勝精神が今後も千代田岳精会の中に永遠に継続して欲しいと願っております。その為に、ご指導頂いた徳本先生の指導の在り方を私の理解の範囲でご紹介します。

- ① 詩文の日本語一音一音を観客に分かる様に発音すること。
- ② 其の為に詩文の内容を良く理解すること。
- ③ 素読を繰り返し、文章を身体に染み込ませること。
- ④ 日本語を美しく発音する為に、口の形を正確に作ることに。
- ⑤ 息は決して吸ってはならない。特に「イ」音は気を付けること。
- ⑥ 伴奏音楽には同期すること。
- ⑦ 合吟の良さは結局チームワークである。

⑧ 全体の合吟力は個人個人の吟力の総和であり、自宅で何処まで真剣に練習して来るかに掛かって居る。

⑨ 舞台の態度も、出場から吟詠をし、退出する迄全員の態度が一本化することが大切だ。

以上が徳本先生のご指導のエッセンスだと思います。良き伝統を後継者に繋ぎながら又、舞台上に上りたいものです。



全国吟道大会

初参加の新しい会員さんにご感想をお願いしました。

全国吟道大会初参加に当たって

東陽町支部 和田 洋

私は昨年四月に七十五歳で詩吟を初体験し、令和元年の全国大会に参加させて戴きました。全国から一千名余りの会員が参集された会場は熱気に包まれた素晴らしい大会でした。我が千代田岳精会男子の合吟は総勢一四六名の大所帯で練習も無く心配しましたが、堂々と息もびったり合つて手前味噌ですが凄いい迫力が有った様に感じました。

宗家の凜とした吟詠を拝聴し、身の引き締まる思いでした。又、少壮吟士の方の澄んだ声や、支部長吟詠の方々の力強い吟を聴いて、吟道はとても奥が深いなと感じました。

第二部の合吟コンクールで東陽町支部教場長が参加された男子チームが並み居る強敵の中で栄えある優勝を遂げたことは、弟子として誇りに思います。

初めての全国吟道大会

桜ヶ丘 安崎 裕子

詩吟を始めて一年六か月目にして、大会にて演目を全て観て、本気で詩吟を学ぶ覚悟が出来まし

た。失礼な話ですが教室に誘われた時、趣味で暇潰し程度の集まりかな？なんて軽く見学に行きました。が、ちゃんとした教室で新しい世界観を感じ入会して今に至り、大会は私に良い刺激でした。教室の年配の方、本部から指導に来て下さる先生方のお元気で張りのある声には、いつも驚きですが、岳精流の先輩方、そして多くの仲間がいると把握できた事もプラスです。

ベテランの方々の吟が素敵でした。第九部の構成吟は初めてで、こんな形の吟もあると興味深かったです。今後色々な行事に参加して、吟を勉強して吟道を高めていきたいです。

全国吟道大会

用賀 清水 安高

私は詩吟を始めて六か月です。全国吟道大会に出場して感じた事は、まず会場の広さと一千人余りの人の多さに驚きました。そして出場された方々の詩吟の上手なこと、中でも九十一歳になられる方が立派に吟じられたこと等、世の中には大変な方が居られるものだと思います。私も千代田岳精会の一員として「壇の浦を過ぐ」を合吟いたしました。練習では上手く吟じられませんでした。が、松本教場長が隣で吟じられたので安心して声が出たと思えました。

それにご指導を受けている平井先生が出場の千代田岳精会男子チームが合吟コンクールで優勝されたことです。後日、賞状と金メダルを拝見しました。金メダルの立派さと重さには驚きでし

た。詩吟とは奥の深いものだと感じました。

合吟コンクールに出場

調布 辻とし子

令和元年六月六日、全国吟道大会が盛大に行われました。私も千代田女子で合吟コンクールに出場させて頂きました。女子部の先生、諸先輩の熱心な指導に感激しながら、合吟の楽しさ、難しさを知り大変勉強になりました。入賞は残念ながらありませんでしたが、皆で「真善美」に心を一つにして吟じられたと思います。未熟者の私ですが参加の機会を頂きましたこと、感謝いたします。本当に有難うございました。今後も精進していきたいと思えます。

金町教場開設

- ・教場名 金町教場 令和元年八月一日開設
- ・教場長 中内 博風
- ・所在地 UR集会場と金町地区センター
(地下鉄千代田線「金町」下車徒歩3分)
- ・開催日 毎月第一・第三月曜日
- ・会員 中内教場長及び会員三名
- ・指導体制 当面、岩崎精慶常任顧問、太田精翠
草加教場長の支援となります。



葛飾区金町の地で、令和元年八月一日、千代田岳精会金町教場を開設することとなりました。入会して十三年、草加教場副教場長を経ての金町教場長の拝命ですが、皆様の力をお借りして努めたと思います。

この度の開設に当たっては、岩崎精慶先生と太田草加教場長の多大なご支援を受けました。平成三十一年三月に新たな教場の立ち上げを葛飾金町地区に計画、直ちにUR集会場のあるUR団地でのビラ貼りと葛飾区の広報紙掲載による会員募集を実施。この間に草加教場の金町分室としてUR集会場と金町地区センターの二か所で月二回デモンストレーション活動をしてきました。結果この六月、七月に新会員三名の入会を得て、金町教場を開設する運びとなりました。

少人数でのスタートとなりますが宗家の「指導は伝道伝達であり、共に学ぶ姿勢にあり」を motto に母体の草加教場と連携をとりつつ、明るく楽しい教場にしたいと考えております。何卒ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



春の昇伝審査会

初めて雅号を受けた方々のご感想(二)

初伝審査を終えて

桜ヶ丘 高汐 櫻泉

今回の昇伝審査は四回目、初回の自分を思い返すと少し慣れてきたかと思えます。

それは順番が最初の方ではなく段々と中堅になったからです。新しい仲間も増え、新しい仲間の頑張りを見ていると自分ももっと頑張りたいと思っています。昇伝審査は自分の成長の区切りとして受けさせて頂いています。

今回初伝審査を受け初めての雅号を戴き、身を引き締め今後も吟じていきます。

教場長はじめ、桜ヶ丘教場の仲間、指導していただいている先生方、今後もよろしくお願い申し上げます。

「泉」を頂いて

新宿第二 荒井 惠泉

四月二十一日、快晴、藤の花も美しく咲き非常に恵まれた天候の下、東郷神社クラブ水交会で平成最後の昇伝審査が開催されました。

越智精麗先生の審査でした。何人かが終わりにいよいよ私の番となり「壇の浦を過ぐ」又は「春寒」のどちらを指定されるかでした。しかし、先生から「好きな方でどうぞ」とお言葉を頂きました。

た。

そこで「壇の浦を過ぐ」を選びました。「魚莊蟹舎…」と吟じ出し夢中で吟じました。誤読、絶句もなく最後まで吟じられたことにほっと胸を撫でおろしました。先生から視線をしっかりとしようご注意を受け、このまま確りと励むようにということでした。

無事に「惠泉」という雅号を戴き、美しい響きに大満足です。また、今後も基本をしっかりと学び、発声、発音をマスター出来たらと思います。今回の「泉」を戴くにあたりご指導して下さった先生方に感謝し、厚くお礼申し上げます。

雅号「泉」を戴きました

東陽町支部 鎌手 麗泉

元号が平成から令和に変わる記念の年に、東郷神社クラブ水交会で初伝審査を受けることができ、本当に幸せなことに感謝しております。平成二十八年二月鶴飼輝山さんの紹介で入会、はや四年目を迎えました。が、昨年は夏の暑さで体調を壊し声が出るようにならなくなり、続けて行く自信を失いましたが、花山先生、諸先生方の熱心なご指導と懸命に学ぶ仲間に元気を戴き、頑張ることができて今回の雅号を戴くことが出来ました。

審査の時には、家吉精雄先生に失礼にも「壇の浦を過ぐ」でとお許し頂き、無事吟ずることが出来ました。優しく的確なご指導で転句は良かったとお褒めを賜り、詩吟は大きな声をしっかりと出すこともこれは健康に一番良いことだとお話し下

さいました。

令和の新しい時代に大好きな詩吟を学べることに感謝して、大声で吟じるように努力致したく思います。宜しくご指導下さいますようお願いいたします。

初伝審査を終えて

桜ヶ丘 大森 美泉

詩吟を始めて四年が経ちました。この度初伝に合格することが出来て大変嬉しく思っています。これも日頃からご指導頂いている教場長や先輩方、忙しいなか桜ヶ丘教場に足を運んで頂いている鈴木会長、岩崎先生はじめ沢山の先生方のおかげです。有難うございます。

ご指導頂いた色々なこと、以前はただ無我夢中で、自分では言われた通りにやっていたつもりでしたが、最近になってやっと、あの時先生が言わんとしていたことはこういう事だったのかと実感できるようになってきました。頭では理解していても、まだまだ出来ないことだらけです。「継続は力なり」「練習は裏切らない」今後この言葉を信じて練習に励みたいと思います。これからもご指導宜しくお願い致します。

雅号「泉」を拝受して

新宿支部 櫻河 義泉

同じ会社の先輩、故酒井帆風先生に勧誘され平成二十七年七月入会。もともと大勢との歓談や唄

の場が好きでしたし、吟は子供の頃から興味があり健康に良いと思いい入会を決断しました。此度「泉」を拝受出来ましたのは、いつも優しく親身になって指導下さいました多くの先生方や吟友の方々のお蔭で感謝申し上げます。

審査は越智先生で、吟題に「春寒」を指定され、大呼吸のタイミングをしっかりと、平板の音の高低をはっきり等の指導を頂きました。

教場では口の開き方、言葉の歯切れ、もっと吟声で腹式呼吸による大きな発声、吟詠中の態度、姿勢、時間超過に留意等の指導を頂いております。時々詩情表現が良いとの励ましも頂けます。最近一番気になることは漢詩の覚えが悪くなってきたことですが、素読に励み、何とか乗り切るよう努力致したいと思っております。

今後の目標は従来通り、毎回の教室、諸行事参加に加え新たにコンダクターの勉強に取り組み、基本吟譜の読み方、呼称、アクセント記号、音位等の理解に励みます。また「泉」に恥じない吟力向上にも努めます。

最後に教室運営上の雑務のお手伝いにも留意したいと思っております。

継続は力なり

桜ヶ丘 平井 相泉

趣味と言えるものがない私が成行きで詩吟を始めて今年で五年目。仕事の都合や体調不良などで休み休みでしたが、続けていたら雅号を頂くことになりました。こんな私が今まで続けて来られ

たのは教室の皆さんの優しい気遣い、先生方の励ましとお褒めの言葉のお陰とと思っています。

今年の教室は今まで以上に新人さんが熱心に勉強されています。真面目に詩吟に取り組んでいる姿は見習うことが多く、励みになっています。これからは永山教室の無欠席を目標にして、もう少し詩吟と向き合ってみようと思えます。詩吟が大好きになれるかもしれません。

「老いて学べば」

清流 中井 武泉

先の昇伝審査において、雅号「泉」を戴きました。詩吟を始めて四年半、未だ未熟を恥じますが、これからの励みに致したいと思います。

通常の教室の他に「千吟会」と「詩歌研修会」に参加させていただいています。「千吟会」では、鈴木会長直々のご指導を頂き、特に九十歳を超える先生方の朗々の吟には、毎々深い感銘を受けています。

「詩歌研修会」では、詩文の解説と併せて作者の人となり、その時代背景などを詳説いただき、漢詩の奥深さそれ故の楽しさを教えて頂いて毎々楽しみな研修会です。

齢七十を超えての学びですが「老いて学べば死しても朽ちず」(佐藤一斎)を銘に、これからも皆様のご指導を戴きながら「詩吟」の勉強に励みたいと存じます。

歌人の心情

生田 石井 源泉

風薫る五月、元号が令和となり大変嬉しく、清々しい気持ちです。

詩吟の吟じ方が難しく、歌人の心情を読み解くまで続けたいと思っておりますが、まだまだ山の一目に着いたばかりと感じております。昇伝審査の指定吟題「春寒」を繰り返して吟じていた時、何故か早春の寂しい田舎の情景が思い浮かんで参りました。小さい頃近所の子供達と野山を駆け巡ったあの頃……。現代と異なり、衣服や食生活も満足に与えられない時代でしたが、それなりに色々工夫を重ねて遊んでいました。家に帰って遠くを見ると雪をかぶった富士山も見えました。忘れてしまった情景の一つ一つが目に浮かんできます。詩吟の歌人の心もきっとそのような心境であったのだと思います。

今後も繰り返し素読と詩の心を掴むべく努力して参りたいと思っております。

吟剣詩舞道連盟コンクール 初入賞感想 (二)

港区吟詠コンクール入賞に寄せて

生田 石井 源泉

平成二十八年一月、千代田岳精会に入りました。右も左も分からず、また、詩吟の持つ深い意

味合いも理解せずに今日までやって来ました。この間、基本における発声等こと細かく諸先輩からご教示頂きました。今回、港区吟詠コンクール参加のきっかけはこれら諸先輩のお誘いでした。

若い時分に音楽関係の趣味で楽器を扱っていたこともあり、音程には少々自信がありました。詩吟の持つ良さはまだまだ理解できておりません。今回の晴れがましいことは、予想もしておりませんでした。ご指導頂いた皆様のお蔭と感謝すると共に、自分に甘えずこれからも努力していきたいと思っております。

千代田岳精会 吟行会

吟行会で日常生活のリフレッシュ

吟楽部門リーダー 石田 匠風

昨年からのアンケート等による会員皆様のご意向により、日帰りでバス旅程を関東甲信越の範囲で企画しました。

本部発行の広報紙「龍吟」に『牧水まつりに参加して』と渋川岳精会の郡司精政会長さんが紹介された若山牧水歌碑がある暮坂峠を尋ね、上州群馬の北西部日本ロマンチック街道をバス二台で行きます。

浅間山麓の錦秋を望み、一吟！ 都心を離れて日頃の体感と違った空気に触れることが出来て、美なるものに感動して下さい。なお渋川岳精会との交流も時間と相談しながら検討中です。

季節より味覚と感覚の方には、上州名物水沢う

どん、舞茸の天ぷらを！ 古人曰く「舞茸を食べると踊りたくなる」そういう舞茸で若山牧水は酒を静かに呑んで短歌を詠んでいたかと思えます。詩吟の詩文・作者の気持ちになり感性をリフレッシュに行きましょう。

千代田岳精会

ホームページ八月六日開設

岳精流のホームページは総本部をはじめ幾つかの会・支部・教場で開設され、情報の提供や交換に実績がありました。千代田岳精会も有志がホームページ編集委員会をスタートさせ、開設となりました。

ホームページの開設に当たって

東陽町支部教場長 宮野 幸山

この度、千代田岳精会ホームページが公開の運びとなりました。鈴木会長をはじめ会員の皆様のご支援に有り難く御礼申し上げます。今回は簡単に作成趣旨と想いを述べさせていただきます。

① 会員が吟を学び合い、新規会員の背中を押す場！

千代田にはいまや三十もの教場があります。各々の教場が自身の情報を発信することで、千代田岳精会の全教場が相互研鑽し、詩吟の魅力を探求しようではありませんか。そしてその姿が、詩吟の世界に興味をお持ちの方々への一歩を踏み出

すためのきつかけになれば、これに勝る喜びはありません。

② 何時でも何処でも吟を楽しみましょう！

情報化時代はどんどん進化しています。新しい情報機器を使い、生活を楽しむ若者が多くなりました。しかし、若者だけにパソコンやスマホの便利さを享受させては勿体ない。私たちもスマホを使ってこのホームページを開き、いつでも何処でも好きな時に吟を楽しみたい。このホームページでは範吟の音声データがありますので、電車の中などいつでもどこでも聴くことが出来るのです。

③ テクノロジーで情報発信と温故知新を！

コンクールや研修の情報など、このホームページでは常に「お知らせ」にて新しい情報を発信しています。また当会には弘報紙「ちよだ」があります。この機会に八田先生のご尽力により、創刊号から最新号まで全号の掲載が出来ました。個人保管では紛失の可能性がありました。もうその心配はありません。また新しい会員の皆さまにも入会前の情報を手軽に学んで頂くことが可能になりました。

ホームページは会員一人一人のものです。教室風景、温習会情報などホームページで発信させていただきます。ただける情報を事務局ではお待ちしています。また、気になる点や改善のアイデアなどがございましたらご連絡下さい。皆で日本一の詩吟ホームページに育てて行きましょう。

編集委員会事務局から

当ホームページは、

URL <http://chiyoda-gakuseikai.com/>

QRコード



となっております。パソコン、スマートフォン、タブレット端末から自由にご覧になれます。

一、トップページ

最初に現れる画面は明治安田生命本社、皇居二重橋等の写真五枚。

二、千代田岳精会とは

ホームページ開設の趣旨、千代田岳精会の紹介、歴史、広報紙「ちよだ」創刊号から全号を掲載。今年度昇任審査吟題と範吟、コンクール吟題と範吟。

三、お知らせ

研修告知板を毎号掲載します。

四、厳選二十五吟

宗家信条・岳精会会詩（宗家先導動画）
厳選二十五題（横山岳精祖宗範・横山精真宗家）
中国漢詩十二題、日本漢詩七題、新体詩等二題、
短歌二題、俳句二題、「詩吟教本」天、続天、
地、人 目次掲載。

五、動画一覧

ホームページ掲載動画の一覧（七月二十四日現在五本）

六、教場一覧

千代田全教場の紹介（教場長、場所、教場開催日時、連絡先）

メッセージ掲載ご希望の方は編集委員会事務局

局までご連絡下さい。

七、リンク

岳精流日本吟院総本部、三河岳精会、公益財団法人「日本吟剣詩舞振興会」、千代田岳精会神楽坂教場、同 桜ヶ丘教場インスタグラム
今後のホームページについて

① ホームページは誕生しました。大きく育てていくのは私達です。

② 情報交換の場としてホームページを活用して下さい。

③ 各教場のおもしろい話、泣ける話、嬉しい話、
どんどん教えて下さい。

④ ホームページ編集委員会の方にご意見をお寄せ下さい。

ご不明な点は編集委員会事務局までお問合せ下さい。事務局 協阪 守（緑泉）090-1999-2088

maki4wakisaka@yahoo.co.jp



千代田岳精会ホームページ（トップ画面の一部）

令和二年昇伝審査指定吟題

◇初伝

月夜三叉口に舟を泛ぶ 高野 蘭亭

己亥の歳 曹 松

◇中伝

春日偶作 武 元衡

九段の桜 本宮 三香

短歌（自由選題、教本の中から選ぶ）

A、B、C型のどれでもよい）

◇奥伝

城山 西 道僊

栽樹自嘲 袁 枚

◇皆伝

俳句（自由選題、教本の中から選ぶ）

五合庵 良 寛

細川玉子 木村 岳風

詩歌研修会について

リーダー 顧問 渋谷 龍報

吟友の皆さんは「研修告知板」を毎月ご覧になつていてと思いますが、その日程欄に「詩研」と記されているのが「詩歌研修会」なのです。会は平成十五年（二〇〇三年）に発足しています。

当時、先輩吟友達も吟詠の向上を目指して研鑽していたのですが、その学ぶ漢詩や作者について、もっと広く深く知りたい、またそれによって詩心

を十分理解し表現できるような吟を詠じたい、という思いから同志を募り、生まれたのがこの詩歌研修会です。

爾来、会は十六年経過していますが月例の研修会には、常に二〜三十人程の吟友が参加して、内外の漢詩と作者を中心に幅広く学び、更に日本や中国の歴史を学ぶ成果をあげて来しました。

この会の特色は、講師が全て千代田岳精会の吟友であることです。講師は課題の詩と作者について研究の成果を発表し、参加の吟友達はそれを学び話し合い、合吟で締めるといふ誠に有意義な集いとなっておりますが、更に最近新たな講師の参加で益々盛り上がっています。

参考までに、研修会は八月と十二月を除く十箇月の第四水曜日、十四時半から十六時半までの約二時間行われ、場所は明治安田生命新宿ビルの地下一階の第五会議室です。

なお、会費は無料、予約は不要です。今年江門時代中心の勉強でしたが、来年は中国の唐を中心とした詩人達の絶句を取り上げる予定であります。

吟友の皆さん、新旧問わず誘い合つて是非参加してみてください。きっと得ることが大きいと思いますよ。



教養講座

詩歌研修会リーダー 渋谷 龍報

佳賓好主 佐藤一斎

月梅花訪好主為 梅月影邀佳賓作

佳賓好主兩雙絶 管領黄昏一刻春

月訪梅花為好主 梅邀月影作佳賓
佳賓好主兩雙絶 管領黄昏一刻春

◇佐藤一斎（一七七二〜一八五九）江戸時代末期の儒者。岩村藩江戸藩邸で生まれる。名は坦、字は大道、捨藏と称した。通称幾久松で一斎はその号。祖先は藤原鎌足の出といわれる。

一斎は幼少の時から読書を好み、また射騎や刀槍などの武術もよく学んだ。十二、三歳の時には学問で身を立てようと決心した。林述斎や中井竹山などに学び、文化二年（一八〇五）林家の塾長に抜擢された。

天保十二年（一八二六）水野忠邦により儒官として登用され昌平黌の官舎に住んだ。一斎はそこで大いに教育に情熱を傾けたが安政六年（一八五九）八十八歳で病没した。

一斎は当代の碩学で学会の重鎮であったのでその門人は三千人と称された。また官職にあった

ためその立場上、朱子学を講じていたが私塾では陽明学を講じた。それで世の人から「陽朱陰王」（表では朱子学を教え、陰で陽明学を教えた）と称されるようになった。

門下からは佐久間象山、大橋訥庵、中村正直など多くの逸材が輩出した。著書に「近思録」三卷「大学摘説」「言志四録」などがある。

「言志四録」は論語の日本版と言われ幕末の志士のバイブルとして大きな影響を与えた。



【解説】春の夕べの梅と月を詠ったもの。佳賓好主は、佳い賓客、好い主人の意。

【語釈】*月影：月の光 *双絶：二つのすぐれたもの（二つの絶景） *黄昏：たそがれ、夕方の薄暗い時刻

【通釈】月は満開の梅花を訪ねて来て好い主人であるとし、一方、梅の方ではよい賓客であるとしている。明るく照らし出す月影、芳香を漂わせる梅の花。この賓客と主人は好一對のすぐれた風景である。かくしてこの月と梅花は、春のたそがれの一刻をわがものとしているのである。

【鑑賞】梅の主人に月の客、という取り合わせの着想はいかにも上品で趣がある。

結句は蘇軾の「春宵一刻值千金、花に清香あり月に陰あり」（春夜）を当然踏まえる。また「黄昏」と言ったのは、林和靖の「疎影横斜・月黄昏」を意識したものだろう。堅い学者の風貌に似合わない優雅な作である。

随筆

嫁・婿は他県の人を

丸の内 本田 親山

第二次世界大戦が終わった昭和二十年（二十二年）は戦争で男手がなくなつたうえ、台風の被害も重なって日本は未曾有の食糧難だった。米も麦もなく、人々は芋や南瓜で飢えを凌いだ。それも農村へ食糧を買出しに行つて農家と衣類の物々交換で食糧を分けてもらい、どこの家も庭は畑となつていた。

私は当時中学生で、放課後は一日おきに十数キロメートルも離れた台地の知り合いの農家に通い、芋や雑穀二十キログラム程を背負つてバスも走らぬ山道をあちこちの集落を抜けて運んだ。

その折角付いたのは、どの集落にも障害を持つ子がいて、時には番犬のように見知らぬ中学生に暴力を振るうので閉口した。当時、第七高等学校の学生だった親戚の青年や保健所のレントゲン技師の親戚と夜話の折「農村の集落にはどこも障害児がいるのだが何故だろう？」と問題提起したら「そりゃあ近親結婚が多いからだ。華族や大名

家を見ると分かるだろう。これも身分の高い家からしか配偶者を選べないので先祖が同じだと家系の劣化が起こるのだよ」と教わつた。

そして「身近な親戚にも従兄妹同士で結婚したら、長女は正常で弁護士さんと結婚したが、長男は東京高等工業を卒業した秀才だったが精神に異常を来たし毎日着流しの着物姿で街をぶらぶら歩き回つて独り言を言っている。次女・三女は障害児で苦勞している人がいる」と言われ納得できた。彼はさらに付け加えて「お前、結婚する時は県外の人を見つけるよ。何故なら親の代で二つの家系でも祖父母の代で家系は四つ、曾祖父母で八つ、十代前では千二十四の家系、二十代前では百四万八千五百七十六の家系の血がお前の体には流れているのだ。鹿児島県の人口二百万人の半分は親戚と言つてもいい計算になるだろう」と教わつた。このことは既に明治時代から言われていたそう。パンダでも朱鷺でも動物学者は「種の劣化」を気にして、新しい血を入れることに汲々としている。

私は機会あるごとに若者に「嫁・婿は他県の人を」と話して聞かせている。



『新 会 員 紹 介 』

◇清流教場

岩田 美恵さん（四月入会）

営業所の大先輩である（年齢は私の方がずっと上なのですが）瀬戸口さんからご紹介いただき、入会させていただきました。大音痴で歌も歌わず歳を重ねてきましたが、このままでは誤嚥性肺炎で死亡する確率が高くなると思い、まずは喉のトレーニング目的から！

◇鎌ヶ谷教場

三代川 栄子さん（二月入会）

詩吟は二、三回聴いたことはありませんが、聴くものであって自分がやるものとは思っていませんでした。友人に誘われるままに始めてしまったのですが、カラオケも一人では歌ったことが無いくらいですので、どうなることか心配です。ご指導よろしく申し上げます。

◇志茂教場

水沼 弘行氏（十二月入会）

去る四月の昇任審査にて三級合格、以来吟友の皆様の末席を汚しております。桜ヶ丘教場の藤村恵山副教場長さんから自宅近隣の志茂教場を紹介頂き、本年一月から小林公風教場長及び諸兄弟のご指導の下で励行中です。

◇ハザマ支部教場

丸岡 昭大氏（二月入会）

高校の後輩であるハザマ教場の小浦場伯山氏から「丸岡さんは良い声をしていますね」とか「性格が詩吟に向いていますよ」などと熱心な誘いを何度も受け、満更でもない気分になり

入会させて頂きました。

元々漢詩には興味があり、中々いいものだと思っていたことも根底にありましたが…。詩吟を始めて普段の生活と全く異なる世界での心地よい緊張感と清々しさを体感しており、元気になる機会を得させて頂いたと今では感謝しています。



南房総 野島崎 星野久風（清水）

編集後記

平成から令和と年号が変わり、全国吟道大会の合吟コンクールで千代田男子が初の優勝を飾った。思えばこれまで何度も挑戦が続けたが男子の四位が最高で、毎回先輩会の女子の厚い壁に跳ね返され入賞すら届かなかった。

会員数では岳精流最大の規模となったが、吟力ではまだ発展途上と言われてきた。最近、連盟の吟詠コンクールでの入賞者数や都大会出場者で評価されてきたと思うが、これでやっと周囲に認められたとの思いが指導者層皆さんの心底にあります。

千代田岳精会のホームページが編集委員会の努力で開設の運びとなった。これからの広報活動の中心となるのは当然の流れと思う。その中に「ちよだ」を掲載してもらった。小職が八号から引き継いだが、創刊号だけが保存されておらず、やっと野沢龍寿先生が所蔵されていたものをお借りして全号揃えることができた。千代田の歴史が散逸する心配がなくなり担当者として有難いことです。

「ちよだ」は千代田が会に昇格した平成九年九月に創刊されており、七教場二二〇名の体制であったことが分かる。以来二十一年、この八月に、三〇教場三三三名の会となっています。

インターネットにも不得手な老生の世代は頼りになる第三世代に任せていく時期だと思っています。

（八田 龍仁）